

国語科の授業の組み立て

1. 目標

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力を次の通り育成することを目指す。

- ①日常生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。
- ②日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を養う。
- ③言葉がもつよさを認識するとともに、言語感覚を養い、国語の大切さを自覚し、国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。

2. 内容の構造

○知識及び技能

①言葉の特徴や使い方

- ・語彙指導に関する事項を含む

②話や文章に含まれている情報の扱い方

- ・情報相互の関係性：「共通と相違」「原因と結果」「具体と抽象」
- ・情報の整理の仕方：「比較や分類」「関係付け」
- ・「引用の仕方」「情報の信頼性の確かめ方」

③我が国の言語文化

○思考力、判断力、表現力

A 話すこと・聞くこと

B 書くこと

C 読むこと

※言語活動を通じた指導の中で、「知識及び技能」「思考力・判断力・表現力」に示された内容を計画的にいくせいしていくことが求められている。

3. 言語活動

言語とは「知的活動（論理や思考）の基盤であるとともにコミュニケーションや感性・情緒の基盤でもある」と定義されています。また、「豊かな心を育む上でも、言語に関する能力を高めていくことが重要である」とされ、言語を基盤とした教育の必要性が強調されています。言語に関する能力の育成のためには、国語科ばかりでなく、各教科等による言語活動の充実が具体化される必要があります。ここにおける言語活動とは、言語によるさまざまな活動のことであり、言語の範囲は数式などを含む、また、広い意味で学習において用いる概念を表す記号全般も意味しています。

4. 単元構想

単元目標をはっきりさせる。

「この単元を学習して、〇〇〇をしよう。」

技能・ストラテジー

活用

||



「言語活動」

- ①「話すこと・聞くこと・書くこと」の単元では、
1. 獲得させる技能を明確にする。
 2. そのための題材が何であるか確認する。
 3. 手順を明確にする。

これを使って、こういう手順で、これを獲得させる。を明確にする。

4. 技能・題材・手順を検討。
- ①削る。変更する。加える。
 - ②題材をより身近な問題にする。(課題の子ども仕様化)

- ②「読むこと」の単元では、

○読み物教材をどのように考えどのような授業を構築するかが、国語科では一番大きな問題であろうと考える。特に読み物教材について次に取り上げることにする。

5. 読み物教材の授業の組み立て

- ①読み物教材の種類

○物語

(読む目的) 発生する事件や出来事をわくわくしたり、はらはらしたりしながら読むことで、物語の世界に浸り、さまざまな体験をしたり、いろいろな生き方を知ったりして豊かな気持ちになること。

(特徴)・登場人物の個性が光り、設定の面白さや不思議さが物語の大きなウエイトを占める。
・表現の特徴として、物語のテーマに即して、会話、比喩、擬人語、擬声語などの表現が工夫されていること、また、描写的な表現が用いられていることなど。

○説明文(○)

(読む目的) 自分の知りたいことや疑問に思ったことについて読むことで、その仕組みやはたらき、意味など詳しくわかるようになること。

(特徴)・話題に沿って、説明の手順がはっきりしていて、段落の構成が明確である。

(問いと答え)

・表現の特徴として、伝えたいことに沿って、適切な写真や図などを用いて、文章をより詳しくわかり易く説明していること。

○動物記(△)

(読む目的) 動物や植物を観察した記録をもとに書いた読み物を読むことで、その生態を理解することができ動物や植物に親しみを持つこと。

(特徴)・継続的にメモをし、正確に記録したことをもとに、記録部分に感想、考えなどを盛り込んで表現豊かに書かれていること。

②授業の組み立て

○単元計画

	I 型	II 型	
第 1 次	A B	A B	用語・新出漢字・新しい表現などをおさえる。 並行読書の作品の選択。 2～3 時間
第 2 次	A	A→B A→B ・ ・ ・	並行読書 ↓ I 型：いくつかの作品を読む。 II 型：1 つの作品を選んでかいていく。
第 3 次	B	B	交流も含む。 3～5 時間

※A：教科書の教材 B：他の作品（並行読書）

○第 2 次で取り扱う内容についての例

（物語文）

- ・ あらすじ
- ・ 主人公について
- ・ 主人公にかかわりの深い登場人物について
- ・ 共感した作者の考え 主題（作者の言いたいこと・訴えたいこと）

（説明文）

- ・ あらすじ
- ・ 文の構成
- ・ 小見出し キーワード
- ・ 要約
- ・ 共感した作者の考え 主題（作者の言いたいこと・訴えたいこと）

（動物記）

- ・ あらすじ
- ・ 感動したところ 新しく知ったところ
- ・ 作者らしい表現 気に入った表現
- ・ 共感した作者の考え 主題（作者の言いたいこと・訴えたいこと）

※取り上げる内容は、あらすじを含め4から5種類が限度であろう。

○その他

- ・ 授業に入る前に、十分、教科書の作品を読ませておくことが重要である。
- ・ あらすじは、挿絵を使うと、とらえやすい。
- ・ 授業に入る前に予習（事前自主学習）させるのも一つの方法である。
新出漢字・難しい言葉の意味調べ・音読
- ・ 第 2 次のそれぞれの時間においては、自分の考えを文にすることとそれを持って交流することが大切である。もちろん、第 3 次も同様である。
文にかく→字数制限をすること
同じ考え同士の交流→考えを深める
違う考え同士の交流→考えを広げる